

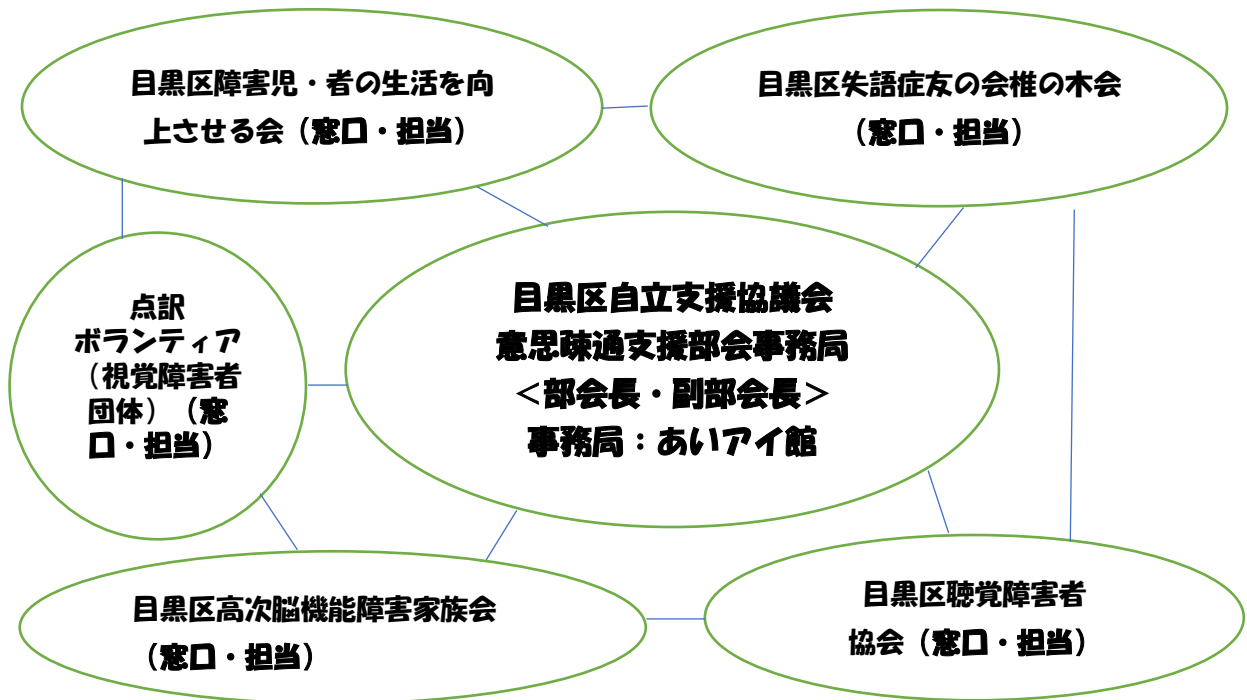
## コロナ禍における当事者目線で出来る意思疎通方法の提案について

目黒区自立支援協議会 意思疎通支援部会  
会長 江見 加津子

### 1、はじめに

本年度より様々な場所でウィズコロナの動きが活発化していますが、障害当事者にとりましては依然として感染症への不安や懸念が払しょくされず、様々な面で悩み苦しんでいる方が少なくありません。そこで部会では直接会員同士が会えない中でも、できるところから情報のやり取りを通じて想いを共有し、その中で見えてきた意思疎通の形について、一部ではありますが、この場でお伝えし、さらにご一緒に考えて頂ければと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

### 2、意思疎通支援部会 構成図



#### <各団体窓口担当の役割>

- ・各団体内での情報集約伝達窓口（団体内の活動報告、協議内容や意思決定の伝達機能）

#### <事務局として>（部会長・副部会長・目黒区心身障害者センターあいアイ館）

- ・区との連絡調整機能や各団体窓口への部会情報の提供、協議依頼、課題点や意向の抽出

### 3、意思疎通のむずかしさ。その上で。

- ・健常者以上に苦勞、苦惱する実情

リモート(在宅)で一見便利に？・・・

いや、パソコン・スマホが使えない、分からない、そもそも持っていない。(当事者の声)

- ・社会的距離？ 3密の回避？ 「自粛」と言われても。  
「ガイドヘルパーさんと常に接している私にとって、、、」（視覚）  
「外出欲が減り落ち込んでしまう、家族みんなが自粛するため自分の居場所が。」（失語症）

#### 4、コロナ禍での困りごとに対し「当事者目線」でできることをコツコツと

##### 聴覚障害

- ◎「マスクの世の中」になって・・・  
・表情や口の動きの把握が困難 → 「顔がみえマスク」の活用  
某企業内の聴覚障害者による発案  
フェイスシールド、等を活用も

##### 視覚障害

- ◎「自粛、自粛」となり・・・  
ボランティアの訪問自粛 → 電話の活用、玄関ドア越しのやり取り  
書類の判別すらできずに 支援者、当事者の創意工夫で進行中

- ◎行き慣れたスーパーでの買い物  
単独での買い物が困難・・・ → あえて右往左往して目立つ  
商品（野菜等）置き場が日々変化し把握が困難 （店員との良好な関係性も必要ですが）

##### 失語症

- ◎家族全員が自粛ムード。自宅内で居場所が。 → 当事者の会（月に一回）参加を促し  
①なるべく靴を履いて外へ出る（散歩等）  
②近所で人に会ったら必ずにこやかに

#### **ご近所付き合い→いざという時の備え(=ついでに助けてもらえる関係作り)が大事**

#### 5、まだまだ感じる「意思疎通」のむずかしさ（当事者の声より）

- ・お店で迷っていると、突然抱きかかえられびっくりして戸惑う。周りの方は善意でしてくださっていると理解しているが、さりげなくどうしましたかと聞いて欲しい。（視覚）
- ・自粛の世の中で街中に人が減り、特に夕方夜間になると切電の影響から「明かり（てがかり）」が減った事で、聞くに聞けず全盲の私にとっては自宅へたどり着くまで苦労しています。（視覚）
- ・自宅からリモート集会へ参加でき便利ではあるが、使えない方との格差を感じています。（知的）

#### 6、コロナになったからこそ、「良い」と感じたこと

- ・一人では難しい意思の疎通について、日頃からかわりのある仲間中心に決して悲観せずに、色々工夫して取り組んでくれたことは勇気づけられ、逆に良かったと感じている。（視覚）
- ・定期通院が毎月から隔月になった。（難病）

**みなさんは、こうした「声」についてどのようにお感じになりますでしょうか。**